

15番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1. ペット防災について</p> <p><b>【質問趣旨】</b> 環境省は2013年「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」を作成。平常時及び災害時における飼い主の役割である「同行避難」「避難所における飼育管理」を示している。また、災害に備えた平常時の対策、体制の整備として「普段の暮らしの中での防災対策」「ペットのしつけと健康管理」「ペットが迷子にならないための対策（マイクロチップ等による所有者明示）」「ペット用の避難用品や備蓄品の確保」「避難所や避難ルートの確認」「災害時の心構え」を示している。</p> <p style="text-align: right;">→続き</p>	<p>(1) 避難所への「同行避難」について</p>	<p>① 「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」では、飼い主と犬、猫と一緒に避難する「同行避難」を推奨している。瀬戸市地域防災計画には、災害時のペットの受入れについて「地域避難所運営マニュアル」の中で運営ルールが示されている。しかし、様々な形態の避難所がある中で、一律の対応は難しいのではないだろうか。自治体と避難所の管理者等が、ペットの同行避難について共通認識を持つことが準備の第一歩である。双方の「共通認識」はできているのか。見解を伺う。</p> <p>② 避難所に速やかに受入れ体制を整えられるよう、初動の指示書と物資をとりまとめた「スターターキット」を備える取組みがある。ペット同行避難用のスターターキットの導入も有効と考えるがどうか。見解を伺う。</p> <p>③ ペット飼養管理の基本ルールを決めることで発災直後の不要な混乱を避けることにつながる。そうした「飼養管理の基本ルールの作成」は避難所ごとに進んでいるのか。現状を伺う。</p> <p>④ 避難所のどの部分を動物の飼養場所として利用するのかを、あらかじめ選定しておくことが重要である。「ペット飼養スペースの選定」は避難所ごとに進んでいるのか。現状を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。  
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。  
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15 番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>過去の震災でも問題となった「ペットがいるから避難所に行けない」等の意見もある。ペットの同行避難というと「ペットを救うための行動」ととられているかもしれないが、同行避難を推進することは、飼い主とペットが躊躇なく避難できる体制を整えることで、安全を確保することが本来の目的である。しかし、過去の震災では、一旦避難した飼い主がペットを避難させるため自宅に戻った際に災害に巻き込まれた事例もある。</p> <p>さらに、同行避難や同伴避難等は、各自治体に判断が委ねられていて対応も様々である。そこで、災害に備え、本市の対応と今後の取組みについて質問する。</p>	<p>(2) 屋内のペット飼養スペースの住みわけについて</p> <p>(3) ペット同行避難訓練について</p> <p>(4) ペットのしつけについて</p>	<p>① ペットの種類によっては、屋内での一時飼養スペースの確保等、体育館以外の避難場所が必要になるのではないだろうか。大規模災害の避難者収容人数の最大想定は、1週間後の6800人である。体育館以外の普通教室や特別教室の活用は想定できるのか。現状と課題を伺う。</p> <p>② 過去の震災でもペットを飼育している避難者は、車中避難し、避難所にペットを連れて行けず避難を躊躇していることが多い。車中やテントの避難者への注意として、エコノミー症候群や時期によっては熱中症を発生する恐れも十分考えられる。レスキューホテルと称されるコンテナホテル等と災害協定を結んでいる自治体もある。災害に備えて、他の自治体と同様、民間ホテルと災害協定を結んではどうか。見解を伺う。</p> <p>① 平常時の準備が大事である。災害時の同行避難についての現状と課題を踏まえ、地域での防災訓練等において、今後、全市的に「ペット同行避難訓練」として実施してはどうか。見解を伺う。</p> <p>① 災害に備えた平常時の対策として、正しい飼い方を身につけてもらうことは重要である。住民対象に「犬のしつけ教室」を開催している自治体（千葉県野田市）がある。「犬のしつけを学ぶ機会が少ないのでありがたい」との声が寄せられている。災害時のペット同行避難の観点から開催を提案したい。見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。  
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。  
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15 番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	<p>(5) 飼い主のマナーについて</p> <p>(6) ペットの防災の情報発信について</p>	<p>① 災害に備えた平常時の対策として、飼い主のマナー向上も重要である。飼い主のマナー向上と道路等へのふんの放置を減らす先進自治体（千葉県佐倉市）では、「イエローチョーク作戦」を実施。同作戦は、住民が「放置された犬のふんをみつけた場合に黄色いチョークで周囲を囲み、日時を記載する。」その後、「時間を置いて現場を確認して残っていればその日時を、回収されていれば、【なし】と書く仕組みである。」チョークは市が配布。事業の周知を図ることで、清潔なまちづくりにもつながっている。導入を提案したい。見解を伺う。</p> <p>① ペット受入れの避難所は、住民に周知が必要である。ペットの防災は自助が重要な要因となる。事前に情報を周知し、飼い主への準備を促す情報発信が重要である。飼い主・住民への周知啓発や、ペットの防災に関して必要な事項を情報発信していくことは、平常時にできるペットの防災の備えであると考えている。市のホームページ、公式LINE等に掲載してはどうか。見解を伺う。</p> <p>② 災害への備えや、災害時の対応等をまとめた記録簿として、普段から持ち歩く等の活用ができる「瀬戸市ペット防災手帳」の作成・配布を提案したい。災害時にペット同行避難に備えることができる。見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。  
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。  
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>2. 「5歳児健診」の導入実施について</p> <p><b>【質問趣旨】</b> 乳幼児健康診査については、母子保健法により、市町村において「1歳6ヶ月児」及び「3歳児」に対する健康診査の実施が義務付けられている。また、乳児期（「3～6ヶ月頃」及び「9～11ヶ月頃」の健康診査についても全国的に実施されている状況である。本市においては、「3ヶ月児」の健康診査が集団健診で、「10ヶ月児」の健康診査は個別医療機関で受診できる。歯科健診については、「1歳6ヶ月児」「3歳児」の健康診査時と「2歳児」に受診できる。</p> <p style="text-align: right;">→続く</p>	<p>(1) 乳幼児健康診査について</p> <p>(2) 巡回療育支援事業について</p> <p>(3) 健診の時期について</p>	<p>① 乳幼児健康診査について、その受診率等を踏まえ、現状と課題を伺う。</p> <p>② 課題の解決のために、特に、必要と考える対策について伺う。</p> <p>① 「5歳児健診」は、発達障がい等を早く発見し、適切な支援につなげることを目的としている。本市では「巡回療育支援事業」「保育所等訪問支援事業」を実施し、早期支援につとめている。「巡回療育支援事業」では、専門職員が園訪問を行い、支援へのアドバイスや学校への連携をつないでいるが、その効果について伺う。</p> <p>② 本市で実施している「巡回療育支援事業」を活用して、「5歳児健診」実施につなげていくことはできないか。見解を伺う。</p> <p>① 実際に5歳児健診を導入した自治体では不登校が減ったという研究もある。小学校入学前の「就学時健診」においては、就学までの期間が短く、支援は難しいと考える。5歳児健診のように、就学時健診よりも早い時期に健診を実施する必要があると考えるがどうか。見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。  
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。  
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

15番	池田 信子 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>こうした現状の中、出産から就学時前までの切れ目のない健康診査の実施体制を整備することを目的に、「1ヶ月児」及び「5歳児」に対する健康診査の費用（国は2分の1、市町村は2分の1。自治体を実施する集団健診で一人当たり3000円が上限。）を助成する健康診査支援事業が始まった。財政支援に加え、必要な技術的支援が行われる。しかし「5歳児健診」については、県内でも未実施の市町村がほとんどである。</p> <p>今回の質問では、発達の特徴を早く発見でき、安心できる就学へとつなげていける「5歳児健診」の早期導入実施をめざし質問する。</p>	<p>(4) 国の助成事業について</p> <p>(5) 専門家の人材確保について</p> <p>(6) フォローアップ体制について</p> <p>(7) 5歳児健診を実施してきた自治体の取り組みについて</p>	<p>① 既に実施されている他の健康診査は、法律による義務付けや、地方交付税措置の対象となっている。この度「5歳児健診」は、国の助成事業が始まり、こうした財政支援を受け「5歳児健診」の早急な導入に期待したい。どのような認識か。見解を伺う。</p> <p>① 今後「5歳児健診」の導入を進めていく場合、医師、保健師といった発達障がい診断や生活指導ができる専門家の確保は課題になると考える。どのような認識か。見解を伺う。</p> <p>① 支援が必要と認められた場合に、必要な支援につなげるフォローアップ体制の充実が重要と考えるがどうか。見解を伺う。</p> <p>① 先進自治体（群馬県藤岡市）では、2007年から県のモデル事業を経て、市の単独事業として実施。全ての5歳児を対象に、月2回の一次健診を設け、気になる行動が見られた場合には、保護者に二次健診の受診を勧める。二次健診では、児童精神科の医師らにより詳細に観察。個々の苦手分野に働きかける支援を月1回程度行う。ほとんどの5歳児が一次健診を受診し、そのうち約2割が二次健診を受診している。また、先進自治体（東京都葛飾区）では、2015年から5歳児健診を実施。対象者の保護者へ毎年アンケートを実施している。アンケートの回収率は約9割と高く、「相談や観察のきっかけになり、良かった」等の声が寄せられており、5歳児健診が保護者の安心感につながっている。こうした取り組みを参考にしたい。1日も早い「5歳児健診」に期待したい。見解を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。  
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。  
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。